

売りと買い・監視通貨・監視時間の固定の考え方と戦略



売りで暴落を取りたい、買いでも取りたい、トレンドフォローで大波に乗り
たい、レンジで縦幅を目一杯取りたい、順張りも逆張りもやりたい。

何を隠そうこれらは全て過去の私の頭の中にあり、結果的にはトレーディング
スタイルを構築する上で大きな足枷となった要素です。

青牛式トレードマスター講座

人とは愚かな生き物で、相場に対して臨機応変に立ち回り、上からも下からも器用に値幅を抜き取れると勘違いするのが現実。

そして、機会損失を回避するために売りも買いも、順張りも逆張りもやりたくなってしまうもの。

それでも中には、そのスタイルでも立ち回れる有能なトレーダーもいるでしょう。

しかし、非情にもトレーダーとしての才能に全く恵まれていない私は、これらを実践しようとするあまり、結果的に非常に大きく遠回りすることになりました。

私自身のこれらの経験を踏まえて、このコンテンツでは「合理的にトレーディングスタイルを確立」してもらうために必要なことをメンバーへ伝えていきますので、最短経路の遠回りをしたというメンバーは是非取り入れて実践してください。

青牛式トレードマスター講座

全体像は次の3つ。

- 1 売りと買いの取引する目線をどちらか一方に固定する
- 2 監視通貨ペアを逆相関の通貨ペア2つに絞る
- 3 チャートの監視時間を固定する



それでは、順に解説していきます。

- 1 売りと買いの取引する目線をどちらか一方に固定する

この方法を選択する上での背景としては、ただマルチタイムフレーム分析

青牛式トレードマスター講座

をするなら特に支障にならないとしても、W1からM1までの8つの時間足を同時に表示する難易度の高いマルチタイムフレーム分析をするとなると、基本的にはあらゆる時間足で売りと買いのチャンスが同時に確認できるという状況に遭遇します。

前段でも触れたように、売りと買いのチャンスを同時に確認できるような状況を器用に立ち振る舞えるトレーダーの方が絶対的に少ないはずで、**凡人が生き残っていくためには、何かを選び、何かを捨てるという決断をしなくてはなりません。**

そして、人間の脳というのは、利益の最大化よりも取引機会の最大化に魅力を感じるように設計されているため、あるあるな話で言うと常にエントリーできるポイントを探しているという状況に、知らず知らずのうちに陥ってしまうのです。

また私の場合は、自身の取引履歴を一定期間遡り統計を出した際に、それまでは好き好んで行っていた売りの方が買いよりも圧倒的に敗率が高かった

青牛式トレードマスター講座

という事実を受けて、それならば買いに絞って取引するという決断をしたことが後々に大きな影響をもたらしました。

ただし、まだあなたの取引実績、つまり統計化する上での分母となる数値が絶対的に少ない場合には算出した数値の信憑性はまずありません。であるならば、少なくとも私と同じ「**買いに目線を固定する**」方が学習効果は**高くなる**と考えるのが自然であるため、その辺りを考慮してご自身で判断してください。



青牛式トレードマスター講座

何より、**目線を固定する最大のメリットは、自分の軸が明確になる**ということ。

中途半端な位置でエントリーしなくなり、セットアップに一貫性と再現性を導き出すことが容易になってきます。そして、トレードジャーナルに基づくPDCAサイクルを形成する上でも、サンプルが固定されているということは、個々のトレードを評価する基準やそれを踏まえた修正、調整も容易になるということであり、より効率的にトレーディングスキルを磨いていくことが可能となります。

加えて、目線を固定することによる副産物として、逆説的な考え方で「この状況は買える場面ではない」ということは「売りのチャンスである」という判断ができるようになります。だからといって、売っていいわけではないことは重々理解して欲しいのですが、将来的に単一通貨で売りと買い両方で取引するようなフェーズに入った時には、より厳密にセットアップの判断ができるようになりますから、まずはどちらか一方に目線を固定し分析力やパターン認識の技術を磨いていきましょう。

また、売り買いの目線をどちらか一方にすると、単純に取引機会が減少すると思うかもしれませんが、逆相関の通貨ペアを監視していれば結局、上か下かのどちらかにしか値動きは進まないため、機会損失との因果関係はないと考えています。

2 監視通貨ペアを逆相関の通貨ペア 2 つに絞る

これを採用する基本的な考え方は、単純に**売り買いの目線を固定することによる機会損失のリスクをカバー**するため。

先ほども言いましたが、上か下かの二択しかない以上、逆相関の通貨ペアを監視していれば、一方が下がりそうなら、もう一方は上がりそうという傾向を戦略的に利用しない手はありません。

こういう理由から、私自身、【EURGBP：GBPUSD & GBPJPY】と【USDJPY：GOLD】という組み合わせで取引対象を選択しています。

ただし、まだ絶対的なベースを確立していないうちは、監視対象は逆相関を考慮した 2 つに絞る方が賢明です。

まずは、2つの通貨ペアで値動きの特性などを身体に染み込ませましょ
う。



3 チャートの監視時間を固定する

兼業であればチャートに向き合う時間が限られるわけですが、それはポジティブに捉えてください。

ということかという、**値動きは時間に支配されている**ため万能ではありませんが、大きな値動き（ボラティリティ）が発生する時間や価格更新が止まり値動きが折り返す時間にある程度の規則性（パターン）を見出せる時があります。

青牛式トレードマスター講座

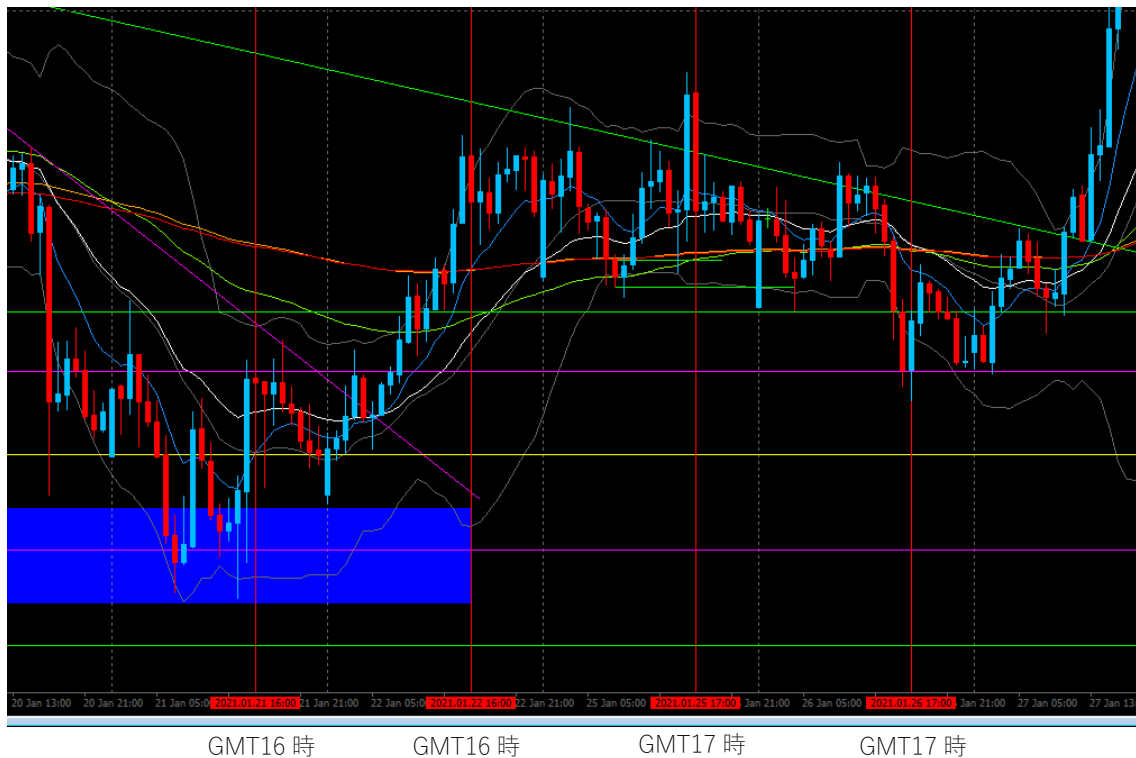
夏時間、冬時間によって時間の多少のズレはあるものの、その規則性を認識できる時は、狙い撃ちをできるため非常に大きなチャンスになります。

私が監視している時間を例に出すと、

通貨ペア	時間の節目
EURGBP : GBPUSD & JPY	15 17 19 22
USDJPY : GOLD	19 20 22 24

という形で、時間の節目とチャートを監視できる時間を意図的にコントロールすることができ、何よりも監視時間の枠を固定することによって、「その時間の特徴」が読めるようになってくるため、その精度を高くデザインできるのであれば相当な優位性となります。

実際のチャートで見てみましょう。



私自身、エントリー精度を極限まで高める要素の一つに、確定足の前後 10 分程度を特に注意深く見極めており、この時間の節目という概念を深く追究していく価値は十分にあるので、実戦レベルで使いこなせるようにしっかりと自分の技術にしていきたいと思います。

4 まとめ

トレーディングスキルを磨いていく上で、何が最も難しいのかという議論は多々ありますが、私の考えとしては、「個人のレベルに関係なく、どんなものでも選択できてしまう」ということだと考えています。

青牛式トレードマスター講座

つまり、どこから選ぶのか、何を選ぶのかなど、ありとあらゆることを技術や経験に関係なくそのまま選べてしまうため、どこに向かっていいのかという確信をいつまでも持つことができない。

しかし、このコンテンツの内容をしっかりと実践することができれば、確実にトレーディングスキルは積み上げられていくでしょう。

何かを選ぶということは、他の何かを捨てるということ。

人生とは選択の連続です。

中途半端なことはせずに、決断したことを信じて進んでいきましょう。

ありがとうございました。

あをうし